

第 92 号【2015/11/1 発行】

発行元：昭和大学横浜市北部病院

●巻頭言

『救急センターの現状と今後』

- 医師の配属・異動・退職
- 診療統計
- 患者さんからのご意見・ご要望
- 患者さんへのお知らせ
- コメディカルリレー紹介
- TOPICS



秋から冬へ...季節の変わり目ですね

巻頭言

『救急センターの役割と今後』



救急センター

神尾 義人准教授

当院の救急センターは病院開設以来、地域中核病院の役割として、救急隊によって搬入される重症な患者さんの対応をメイン業務としております。従って、通常の外来診療やいわゆる予約診療は行っておりません。また、院内急変（コードブルー）時の参集の際には当センターが主導となり対応しております。

当センターの主たる診療対象疾患はありません。強いて言えば、“急患”です。多い疾患としては、意識障害、急性心筋梗塞を含む急性心疾患、急性呼吸不全または慢性呼吸不全の急性増悪、急性中毒(薬物・毒物)、ショック、消化管出血（含む緊急で止血を要するもの）、肝不全・腎不全、重症糖尿病などの重症代謝障害、緊急手術を要するもの、多発外傷、心肺停止、救急蘇生後などの重症患者、メンタル疾患、そのほかにも 1-2 次の軽症/中等症の患者さんも多くいます。

いわゆる北米型 ER の救急外来には、手術室に準じた蘇生室 2 床と、処置室 5 床(婦人科 1 床・眼耳鼻科 1 床を含む)、さらに回復室 3 床を備えております。救急専用の入院病床は計 25 床で、その内の 5 床には ICU と同等の重症患者監視装置が備えられ、人工呼吸・脳低温療法・血液浄化法などの集中治療の諸局面にも対応できます。

当センターが対象としている患者さんは、基本的に救急車の受け入れ要請から始まっています（医療機関からの紹介で、疾患の目途がある程度立っているようなケースは、該当の診療科の方にお尋ねいただいております）。入院が必要な際には、主病変の科もしくは当センターで対応させていただいております。救急医療の特性上、できるだけ早い退院、次の急患のための空床の準備を心がけておりますが、院内で対応しきれない場合には病病連携（転院）も積極的に行っております。

横浜消防との連携で、メディカルコントロール体制にも参加しております（横浜市救急体制の 13 病院の一つです）。当センタースタッフは、救急医療や病院前救護に関する勉強会・講習会にも積極的に参加し、救急隊員とともに病院前医療の向上に努めています。

私は 20 年以上、呼吸器外科医として医療に携わっておりますが、当センターに配属となったのは約 2 年前です。そのため救急医としてはまだまだ新人で、院内の各科の医師・部署のお力添えをいただきながら体制づくりを行っております。心臓血管カテーテル室のお陰で、一時は心肺停止となった患者さんでも、26 年度は 3 人、27 年度も現時点で 3 人社会復帰しております。この秋、脳神経外科が新体制となり活性化してきております。患者支援室も新体制となり、病院全体としてもさらに活性化させる方針です。

当センターは診療の中で、外部では主に横浜消防、内部では全診療科と関わり合いを持ち、患者支援室を介して病病連携、と各所に関わっていくことが職務と考えております。

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2015 年 9 月～10 月

【新規採用】

- ・南 潤 明宏（循環器センター）奈良県立医科大学 昭和 58 年卒
- ・大宮 俊啓（消化器センター）福岡大学 平成 22 年卒
- ・佐藤 雄太（消化器センター）東京内視鏡クリニック 平成 22 年卒
- ・石山 泰寛（消化器センター）福井県立病院 平成 20 年卒
- ・遠藤 貴美（眼科）昭和大学大学院 平成 23 年卒

【附属施設より】

- ・渡部 良雄（呼吸器センター）昭和大学大学院 平成 19 年卒
- ・齋藤 佳範（内科）昭和大学 平成 22 年卒
- ・白子 春菜（整形外科）東海大学 平成 25 年卒
- ・長崎 理佳（歯科）昭和大学大学院 平成 26 年卒

【配置転換】

- ・宮地 英行（消化器センター⇒救急センター）
- ・若村 邦彦（救急センター⇒消化器センター）
- ・東山 祐介（整形外科⇒救急センター）
- ・岡部 俊孝（救急センター⇒心臓血管カテーテル室）
- ・雨宮 妃（心臓血管カテーテル室⇒救急センター）

【学外研修終了】

- ・林 靖子（消化器センター）
- ・釋尾 有樹子（消化器センター）
- ・高橋 剛（内科）
- ・松原 英司（泌尿器科）

異動 退職医師

2015 年 9 月～10 月

【昭和大学附属施設へ】

- ・廣瀬 佑輔（産婦人科⇒昭和大学病院産婦人科）
- ・野村 奈央（産婦人科⇒昭和大学病院産婦人科）
- ・奥山 亜由美（産婦人科⇒昭和大学病院産婦人科）
- ・菊池 優（メンタルケアセンター⇒藤が丘病院精神神経科）
- ・大曾根 敬子（麻酔科⇒昭和大学歯学部）
- ・高橋 剛（内科⇒江東豊洲病院内科）
- ・橋本 直方（呼吸器センター⇒昭和大学病院呼吸器アレルギー-内科）

【学外研修】

- ・中村 大樹（消化器センター）
- ・一政 克朗（消化器センター）
- ・桜井 達也（消化器センター）

【退職】

- ・北原 優（内科）
- ・加賀 まこと（消化器センター）
- ・島田 麻里（消化器センター）
- ・石川 琢也（こどもセンター）
- ・前田 康晴（消化器センター）
- ・小川 雄一郎（泌尿器科）

診療統計

2015 年 8 月～9 月統計データ（）内は 1 日平均

診療実日数 8 月（入院：31 日・外来：26 日）、9 月（入院：30 日・外来：23 日）

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
8 月	27,057 人(1,040.7 人)	18,069 人(582.9 人)	333 件(10.7 件)	684 件(32.6 件)
9 月	26,456 人(1,150.3 人)	17,316 人(577.2 人)	318 件(10.6 件)	589 件(31.0 件)

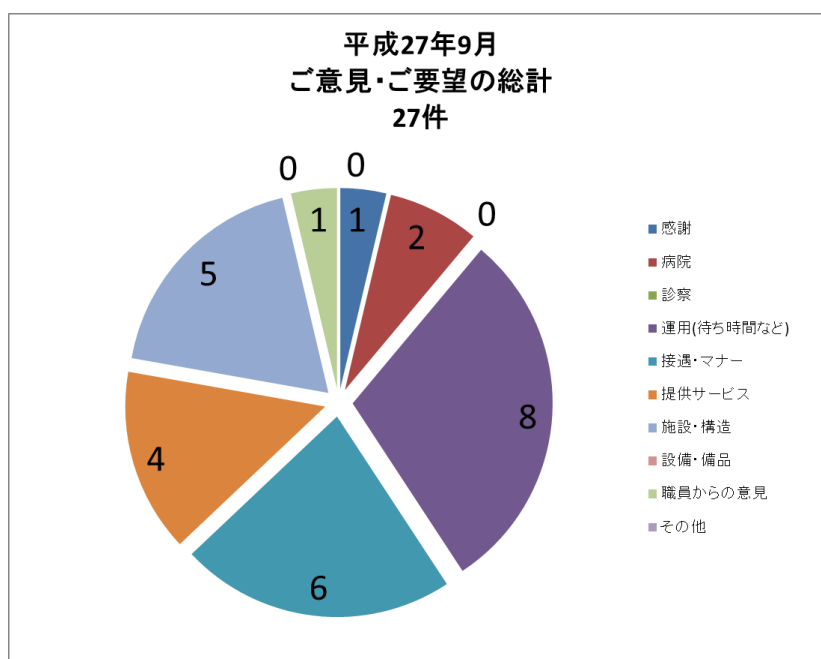
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見・ご要望に関しましては、関連する部署の責任者に報告し改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近多くいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させて頂きました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
電話交換手の女性の返答が横柄。 もっと患者の立場に立った病院らしい受け答えを望みます。	患者さんの中には私たちには想像もつかない不安を抱え、通常の言葉遣いや対応をしても過敏に感じることもあることを配慮し、ご意見を真摯に受け止め業務をするよう指示しました。



患者さんへお知らせ

休診に関するお知らせ

■創立記念日について

11月15日(日)は昭和大学の創立記念日となっております。毎年休診とさせていただいておりますが、本年は日曜日のため通常の休日扱いとなり別途振替休診日等はありません。

■年末年始について

12月29日(火)～1月3日(日)まで年末年始休診とさせていただきます。
詳細は当ホームページにてご確認くださいませようお願い致します。

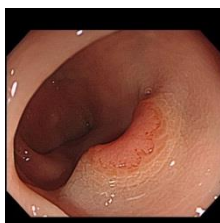
患者さんへお知らせ

「大腸がん」、「ESD 内視鏡治療」は消化器センターへ

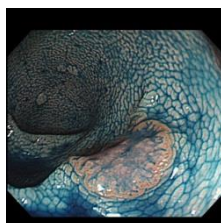
(1)診療科の特徴

【大腸がんの早期診断・早期治療】

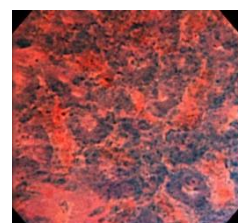
超拡大内視鏡(エンドサイトスコーピー)—450 倍の拡大倍率で大腸の腫瘍を細胞レベルまで 観察可能—を積極的に用います。診断精度が非常に高く、消化器センターから発信したレポートは世界で大きな注目を浴びています。



【通常の内視鏡像】



【インジゴカルミン撒布像】



【超拡大内視鏡】

(腫大し濃染した核が観察される)

大腸癌の低侵襲治療で大いに注目を浴びているのが ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)です。

2005 年に開始し、ESD は 2012 年 4 月から保険収載となり、今後さらに症例数の増加が期待されます。当センターでは偶発症を起こさないように手技の向上を絶えず図っています。

(2)対象疾患／特徴

- 食道(咽頭・喉頭を含む)、胃、十二指腸、小腸、大腸、肝臓、脾臓、胆道など消化器に関係するあらゆる疾患
- 逆流性食道炎、感染性・薬剤性食道炎、食道潰瘍、悪性リンパ腫、食道静脈瘤など多彩な食道疾患、特に食道癌に対する診断と治療
- 胃疾患では胃潰瘍、胃炎などの疾患は言うに及ばず、胃悪性リンパ腫や早期・進行胃癌の診断と治療が中心
- 大腸領域は世界屈指の施設としてこれまで築き上げてきましたが、何といても早期大腸癌の内視鏡診断が中心。大腸癌などの腫瘍性疾患と多様な炎症性疾患に分けられますが、当院でも感染性腸炎や潰瘍性大腸炎、クローン病、腸結核などの対象疾患も近年増えてきています。
- 肝疾患ではB型肝炎、C型肝炎、肝硬変、肝癌が、胆疾患では急性胆嚢炎、胆石、胆嚢ポリープ、胆嚢癌が中心。脾疾患では急性脾炎、慢性脾炎、脾性糖尿病、自己免疫性脾炎、脾癌が主な対象疾患。肝胆脾疾患は診断が難しく、治療も難渋する例が多いのですが、稀な疾患も含めてすべて対応できるのが当消化器センターの強みです。また、肝移植や脾移植に関するセカンドオピニオンも行っております。

(3)診療体制



工藤 進英
(外科)
(センター長、教授)



石田 文生
(外科)
(診療科長、教授)



日高 英二
(外科)
(准教授)



馬場 俊之
(内科)
(准教授)

患者さんへお知らせ

「下垂体腺腫」「頸動脈狭窄症」「脳動脈瘤」

「脳腫瘍」「脳卒中」は脳神経外科へ

(1)診療科の特徴

2015年9月よりメンバーが増員されました。急性期脳卒中（脳梗塞、くも膜下出血、脳出血）、頭部外傷を中心とする救急疾患は積極的に受け入れています。スタッフ一同、よろしくお願いいたします。

当科の大きな柱は、1. 脳血管障害、2. 下垂体腺腫、3. 頭蓋底腫瘍です。昭和大学脳神経外科学講座に師事して、日本トップクラスの血管障害の手術を学び、そのノウハウを活かした治療を積極的に行っています。

また当科の特色として、神経内視鏡を用い頭蓋底外科手術を行っています。開頭をしなくて、低侵襲な治療を提供することが可能です。特に下垂体腺腫は、内分泌学的知識を兼ね備えた脳神経外科医が少ないなかで、下垂体機能を考慮した丁寧な手術治療を心掛けており、良好な成績をおさめています。

(2)対象疾患／特徴

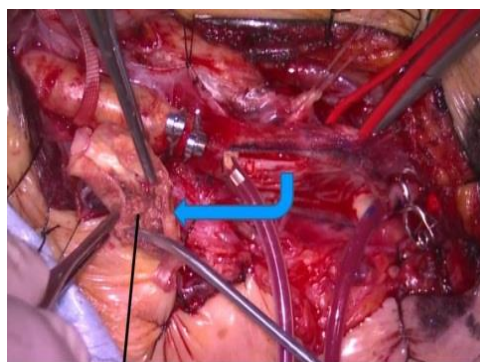
1. 脳血管障害(脳梗塞を含む): 昭和大学では、1400例の未破裂脳動脈瘤手術、650例の頸動脈内膜剥離術の経験があり、当科の藤島医師はそのノウハウを活かした治療を提供いたします。

【頸動脈内膜剥離術の術野】⇒

2. 下垂体腺腫: 当科の谷岡医師は、間脳下垂体の内分泌外科の専門医です。ハイビジョン内視鏡を導入し最先端の手術治療を行っております。内分泌学の知識を持ち神経内視鏡手術を行う脳神経外科医は神奈川県内では唯一であると自負しております。

【神経内視鏡を用いた手術法】⇒

3. 頭蓋底腫瘍: 頭蓋底部に存在する腫瘍は困難を伴います。頭蓋底部の骨を削除して病変を十分に露出する手技により安全な操作下に腫瘍の摘出率を向上させることができます。当科では、病変の拡がりにより開頭または神経内視鏡下拡大蝶形骨洞法を用いた最先端の治療を提供いたします。



摘出したプラーク



(3)診療体制



谷岡 大輔
(間脳・下垂体疾患・
頭蓋底外科)
(講師)



藤島 裕文
(脳動脈瘤・頸動脈狭窄症
・脳虚血性疾患)
(助教)



國井 紀彦
(悪性脳腫瘍)
(助教)

コメディカルリレー紹介 vol. 9《医療安全管理室》

このページでは、病院内の部署・職種を順番に紹介しています。

当院の医療安全活動を担う部門として、平成 13 年の開院当初は医療事故防止対策委員会という名称で活動がなされておりましたが、平成 16 年からは医療安全管理委員会に呼称変更され、現在の体制の基礎が整いました。

その中で医療安全管理室は医療安全管理委員会で討議・決定された内容に対する実働チームとして、当院の医療安全を推進し、患者の皆様が安全な医療を受けられる環境を構築するために設置されました。室長は初代渡邊浩之医師（当時 内科助教授）以後、中島宏昭医師（当時 呼吸器センター教授）、世良田和幸医師（現 病院長）の後を受け、現在私成島（医療教育支援室教授、副院長）が専任医師として務めております。医療安全管理室は病院長直属の部署で、医療安全管理委員会、対策会議および事故調査委員会と連携して業務が行われています。構成員は、医師（専任）、看護師（専従）、事務員（専従）、管理課長、医事課長、その他病院長が指名した者となっています。



《医療安全管理室の役割》

その役割としては 1.情報管理：インシデントレポート報告からリスク把握と分析、情報収集・広報活動、重要事例の資料と分析報告書の管理、文献収集や外部機関との情報交換 2.院内調整：医療安全管理委員会への参加、医療安全管理室による部門間・職種間の調整 3.教育活動：医療安全に関する研修への参加と職員への指導 4.助言活動：病院幹部の指示による職員との面談と問題解決の支援 5.自己啓発：役割構築のため積極的に研修に参加する、など多岐に亘っています。

《現状と課題》

21 世紀も 1st decade が過ぎ、昭和大学横浜市北部病院も開院して 15 年を迎えました。病院の成長過程に例えるならば、あらゆる点で所謂成熟期に入ったものと言えるのかもしれませんが。開院当初の熱情は徐々に落ち着きの様相を呈し、最近では受診・入院患者数を増やすことのみならず、より質の高い医療を求める声が大きくなってきています。そして医療事故調査制度発足など、我が国の医療安全に対する認識の高まりもあり、医療を受ける側および提供する側の双方にその重圧がのしかかってきています。それ故、医療従事者としてはこの避けては通れない現実をいかに乗り越えていけるかがとても大きな課題となっています。15 年前の認識がある意味通用しなくなりつつあるようにも思えます。

《これからの展望》

医療安全管理室は、その重圧を少しでも軽減できるよう、様々な情報提供・共有を図り、安全行動に対する研修などを効率よく実施していきたくております。そして個人の努力のみならず、組織の専門的な知識を有するスタッフがチームを組んで活動すること、また仕組み（システム）を見直し部門同士の協力体制を強化していくことで、より質の高い活動につなげていけるよう力を注いでいきたいと考えております。

TOPICS

学生実習を行いました。

当院には毎年 1000 名を超す学生たちが病院実習のために訪れます。今回、本学富士吉田教育部 1 年生対象の「初年次体験実習」、そして各学部高学年の学生対象の「学部連携病棟実習」についてご紹介いたします。

【初年次体験実習】

平成 27 年 9 月 7 日（月）から 14 日（月）の期間、全 6 日間の日程で富士吉田教育部 1 年生が「初年次体験実習」のため当院を訪れました。これはいわゆる early exposure の一環として、医・歯・薬・保健医療学部の各学部生混成の 5 人 1 グループが、毎日入れ替わりで病棟や手術室、検査室など病院内の様々な部署に赴き、実習を行うというものです。彼らは病院に来て実習すること自体初めてで、見るもの聞くことの全てが新鮮であったと思います。1 部署平均 1 時間前後といった短い時間ではありましたが、できるだけ多くの部署を彼らに体験してもらえようスケジュール調整をしました。その中で自分とは異なる学部の学生と一緒に実習をすることを通して、本学が掲げる「チーム医療」についても体験してもらえたのではないかと考えています。そして今後医療のプロを目指す彼らにとって、本実習が貴重で有意義なものであったと感じてもらえたならば大変喜ばしい限りです。これからも勉強や様々な実習が多く待っていますが、今回感じた熱い思いを胸に、将来立派な医療人となって社会で活躍されることを切に願っております。



←手術室見学



歯科室見学→

【学部連携病棟実習】

平成 27 年 9 月 28 日（月）から 10 月 2 日（金）までの期間に「学部連携病棟実習（Ⅱ期）」が行われました。この実習は、先の「初年次体験実習」と同様に各学部生混成の学生グループ（各学部高学年）を作り、1 週間を通して同じ病棟で行う実習です。グループで受持つ患者さんに対して、治療方針などをグループの学生たち自身で考え、それを最終日に発表するというものです。そのため 1 年次とは異なり、より実践的で専門的な内容が求められます。もちろん学生たちをサポート・指導する大学教員や当院の医師・看護師といったスタッフの協力も必須ですが、あくまで学生自身たちで話し合い、学部が異なることによる様々な立場、視点に基づいて、より良い治療やケアの方法を見出していく、本当の意味での「チーム医療」の実践の場がそこにはあります。我が国でもこのように充実した学部間連携教育を推し進めている大学はまだ少なく、彼らにとっては大変貴重な経験となっています。

TOPICS

ロビーコンサートを開催しました。

平成 27 年 9 月 29 日（火）にロビーコンサートを開催しました。本学大学院保健医療学研究科田中 大介医師（ピアノ・歌）、当院麻酔科小口理英医師（サクソ・歌）、新日本舞踊しもでまりこ氏の 3 名による、盛りだくさんのプログラムでお届けしました。

『蘇州夜曲』『糸』『イエスタデイ』などのプログラムを田中医師と小口医師の楽器演奏に加え、お二人のハーモニーに合わせて舞う新日本舞踊でお楽しみいただきました。



最後にはお越しくださったみなさんと一緒に『ふるさと』を合唱し、それぞれの故郷を思い出しながら心地よいひと時を過ごすことが出来ました。

都筑区自衛消防隊消防操法技術訓練に参加しました。

平成 27 年 9 月 17 日（木）に都筑区の都田公園にて行われました「平成 27 年度都筑区自衛消防隊消防操法技術訓練会」に参加し、その中で北部病院は 2 号屋内消火栓操法の部に出場しました。これは指揮者と隊員の 2 名で行うものであり、直径 25 ミリのホースを延長し、放水して火点の標的を倒すという内容で、標準タイム 40 秒以内で安全・確実・迅速に行うものです。当日は、前日から続く「バケツをひっくり返したような大雨」であり、参加者は非常に大変であったと思われます。結果は 4 チーム中 3 位ではありましたが、何より怪我もなく無事に終わることができ良かったと思います。来年はぜひ 1 位を目指していきたいと思います。参加された隊員の方、本当にお疲れ様でした。

編集後記



木々の葉が赤や黄色に色づき、空気も澄んで冷たくなり、すっかり秋の気配が濃くなってまいりました。スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋・・・皆さんにとって、秋はどんな季節でしょうか。私は先日 2 泊 3 日の学会出張で文庫本 4 冊を読破しました。そして食べ物がおいしく体重が・・・です。きのこ、青魚など血管に優しいものも旬となり「体に良いから」と言い訳しながら食べています。また気候的に体を動かしやすい季節です。ふだん体を動かすことがない私も車を使う回数を減らし、歩くようにしています。ちょっとした散歩をするだけでも、心地良い風を感じられます。

皆さんも旬の美味しいものを食べるとともに、活動範囲を少し広げてみてはいかがでしょうか。

広報委員会 委員 曾我 恭司

北部病院だより 第 92 号

平成 27 年 11 月 1 日発行

発行責任者 世良田 和幸（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。